

令和5年度第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和5年8月23日（水）午前9時30分～12時00分

場所：市民ふれあいプラザ「コムコム」多目的ホール

【出席委員】

大穂耕一郎、近藤大介、佐藤真弓、庄子芳和、簾内正人、中嶋俊彦、長門良幸、成田耕介、三浦栄一（五十音順、敬称略）

【欠席委員】

伊藤晴樹、木村加奈子、田崎覚、張了了、長崎久美子、増田光（五十音順、敬称略）

【説明員】

小松正彦総務部長、西根弘樹財務部長、佐藤栄作市民生活部長、三沢聡健康福祉部長、金田浩樹産業部長、金澤誠産業部政策監、長岐孝生建設部長、小坂竜也教育次長、中嶋忍消防長

【事務局】

福嶋統総合政策課長、高田徹政策係長、永坂洋男副主幹

【会議の概要】

1. 新委員の紹介
2. 座長あいさつ
3. 協議事項

○事務局（永坂副主幹）説明

- ・ 会議資料の確認と資料訂正、会議の進め方について説明。
- ・ 資料1「総合戦略・総合計画目標値達成状況」と資料2「北秋田市人口ビジョンの推計値との比較」について説明。

（1）北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 効果検証シートについて

効果検証シートについて、各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

《質疑応答》

質疑は総合戦略と総合計画に区切って進めることとして総合戦略は戦略ごと、総合計画は基本理念ごとに議論を行った。

○総合戦略

「戦略1 産業振興による仕事づくり・稼ぐ地域づくり」※検証シート No. 1～21

座長) No. 11 について、全国的に見ても中心市街地の空洞化が進んでいる中で空き店舗をどうするかということが課題となっているが、空き店舗を活用することで人の流れを作ることが可能となる。しかし、空き店舗の利活用には所有者との関係がネックになる場合があるようなのでそういった部分のサポートも含めて空き店舗の利活用を図ってもらいたい。

産業部政策監) 平成 30 年度に商工会が中心となって中心市街地の空き店舗調査を行っているが、今回は市全域を対象として調査を行いたいと考えている。調査では、項目を細かく設定して所有者の意向も確認できるようにしたい。調査結果を踏まえて市の施策を検討したいと考えている。

長門委員) No. 8 の K P I は年間伐採面積の 1/3 の再生林を目標としているが、伐採後に何もしないのであれば 100%再生林したほうが良いと思うのだが、目標を 3 割としている理由はなぜか。また、3 割の目標に対して令和 4 年度実績が 11.6%は低いと思うが理由があるのか。

産業部長) 皆伐した後に 2 つの方法があり、自然のままにする天然更新と販売するための杉などを造林する再生林がある。核家族化や後継者の流出などにより自分の代で財産を整理する方もいる。しかし、今後の環境問題等を考えると再生林は必要と考えるので再生林に係る経費の補助を行いながら進めて行きたい。実績値が低いのは山林所有者の方が手放している実態がある。

長門委員) 新植に対する補助もあるため植樹自体は問題ないと思うが、実際に植樹する人がいないので関わらないという声を聞いている。実際に携わる人がいないのが問題だと思うので林業従事者を増やしていくにあたって伐採事業者と植樹事業者を分けて考えるなどが必要と考える。

産業部長) 林業従事者を増やしていくことが解決策だと思うが、所有者の考え方を変えていくということも必要だと思うので働きかけていきたい。

大穂委員) No. 8 の K P I は民有林についてのことか。また、これまでに皆伐した後の土砂崩れはあったか。

産業部長) 数値は民有林のものになる。また、近年の大雨による被害はあるが、それが皆伐による被害なのかの調査は行っていないため不明である。

「戦略 2 新たな人の流れをつくる移住・定住の促進」※検証シート No. 22~26
質疑等なし

「戦略3 結婚・出産・子育てをかなえる切れ目のない支援の推進」※検証シート No. 27
～37

質疑等なし

「戦略4 住み続けたい、安心を築く地域社会の形成」※検証シート No. 38～69

佐藤委員) No. 49 について、仕事をリタイヤした方などから習い事をしたいので講座などを教えてもらえないかという相談を受けることがあるが、市のHPやSNSを見てもどのようなサークル事業を行っているのか探しづらく分かりにくいので工夫して簡単に情報収集できる環境を整えてもらいたい。

また、No. 59 の福祉の雪事業の担い手について、個人登録を行う場合の条件はあるのか。例えば北秋田市以外の方や高校生、大館市の福祉系大学の学生を募集するとか考えられると思う。

教育次長) 市で行う講座についての周知はHP等で行っている。自主活動として各地域の公民館で行っている講座の案内については同じような周知を行えていない場合があるため希望する方が利用しやすいように周知方法を検討したい。

座長) 公民館だよりやコムコムから発信しているものに入れ込むだけでも効果があると思う。

健康福祉部長) 除雪は基本的に毎日の作業であることを考えると遠方の方を登録することは難しい。また、大学生への呼びかけについては、日々の除雪ということではなく別の形で協力してもらえるものか検討したい。

座長) No. 42 について、学習状況調査の「学校が楽しい」と答えた生徒の割合が県より10%下回っているというのはかなり低い数値だと思う。様々な原因があると思うが市では原因の追求と対応方法について分析して、生徒が楽しく学校に通えるようにしてもらいたい。併せて市では留学制度も行っているのそのような教育の魅力や市の魅力も含めて情報発信してもらいたい。

教育次長) 各学校においては校長先生が目標を立てて学校運営に取り組んでいる。そして、各学校には学校運営協議会があり、その中でも学校運営について意見等をいただいたり、生徒の状況を報告したりしている。そのほか、教育委員による学校訪問において学校の状況を確認している。学年や調査年度などによって回答にばらつきがある状況だが、市としてはふるさと教育に力を注いでおり、地域の方々の協力をいただきながら子供たちが地域に出向いたり、逆に地域の方々をお迎えしたりというようなことを行うことで自己有用感が高まり、結果として数値が向上するものと考えている。

庄子委員) No. 62 について、大館能代空港の利用者数は北秋田市だけの取り組みでは難しいものなので大館市や能代市など他自治体等と連携して取り組んでもらいたい。

また、市としては誘致企業などのビジネス利用、市民への補助による利用促進、市内中学校、高校での修学旅行での利用促進などが考えられるので検討をお願いしたい。

総務部長) ビジネス利用並びに個人利用の促進のため、関係団体と連携して取り組んでいきたい。修学旅行などの団体利用については、3 便化によって利用しやすくなっているため引き続き利用促進を図っていきたい。

○総合計画

「基本理念1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり」※検証シート No. 70~78

佐藤委員) No. 70 について、北秋田市の訪問看護の現状はすべての事業所が混んでいて利用したくても断られるケースが増えている。そのため自宅で最期を看取りたいと考えている場合でも病院で最期を迎えざるを得ない状況が増えている。現状では訪問看護の強化に対する支援を行ってもフル稼働している状況であり、対応が追い付いていない状況を理解してもらいたい。

No. 73 の健診受診率を高めるために、対象となる人に実態把握調査を行って、その調査結果からアプローチをする人を特定して取り組んだほうが効果的と考える。

健康福祉部長) 訪問看護の件については、関係機関と機会を設けて協議を行いたい。健診受診率を高めるための実態把握調査については、現場と確認を行った上で検討したい。

大穂委員) 秋田県の広域医療圏を見直すとの報道があったが、その場合に北秋田市民病院はどうなるのか。

健康福祉部長) 2 次医療圏の再編については、県が策定する計画となっており、県から県民に対して周知が図られるものと思われる。詳細について今後情報があつたら市からも情報発信していきたい。

座長) 医療圏について、1 次、2 次の違いが分かりづらいのでそのような部分も分かりやすく伝えてもらいたい。

「基本理念2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり」※検証シート No. 79~90

簾内委員) No. 80 のひきこもりに関することについて、北秋田市のひきこもりの現状について、ひきこもりの方がどれくらいいるのか。また、ひきこもりの基準(年齢など)があるのか市の実態を教えてください。ハローワークを利用する求職者数や訓練を受講される方が年々減少しているため、ひきこもりの方の職業相談、訓練受講などの支援

につなげていきたいと考えている。

健康福祉部長）家庭児童相談などの相談業務の情報やくらし相談センターにおける相談受付などによる数字や内容の把握はしているが、全容の把握となると非常に難しい。ひきこもりの基準については、わからない部分があり回答できないが、例えば幼少期であれば不登校の児童の相談に応じている。

籾内委員）県中央、県南ではひきこもりに対してサポートステーションが支援を行っているが県北にはないため、その部分をどのように補っているのかということが知りたかった。

また、中高年齢になったときに介護等により職に就いていないということが実態としてあるように感じている。実際に介護をしなくてよくなってからハローワークに相談に来る方が増えているように感じている。高齢になるほど再就職が難しくなることからできる限りひきこもりの実態を把握したいと考えている。そのような方がいる場合はハローワークへ誘導してもらいたい。

「基本理念3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむまちづくり」※検証シート No. 91～100

中嶋委員）No. 91 について、数年前までは伊勢堂岱遺跡を見学したことのある市民の割合は30%を下回っていたと記憶しているが、令和4年度実績は39.8%と10%も向上している。これは令和3年7月に世界文化遺産になった影響が非常に大きかったと思うが、これで満足するのではなく、今後も官民連携して知名度の向上を図っていかねばならない。

中嶋委員）各部署から様々な施策の説明を受けたが、北秋田市として最も重要な課題は人口減少である。特に15歳未満の子供たちが加速度的に減少している。人口減少により税収も減少していくが、そのような中でも様々な施策を行うにあたってはしっかりと優先順位をつけて取り組まなければならない。市民には行政に頼るだけでなく一市民として何ができるのか、何をやらなければならないのかというような意識の醸成を図っていかねばならないと思うので、そのような部分についてもしっかりと議論してもらいたい。

教育次長）伊勢堂岱遺跡に関しては、教育委員会部局だけではなく産業部や県とも連携しながら様々な取り組みを行っている。機会があれば遺跡に関して協力したいという市民からの声もあるため、そのようなきっかけづくりに取り組みたいと考えている。

総務部長）人口減少が市にとって危機的な状況であるということは認識している。市において施策に優先順位をつけて取り組むべきとの提言があったが、市では今年度からこ

ども課を設置して子育てやこどもに関する施策を重点的に取り組むこととしている。また、農林業における後継者の育成や移住定住の取り組みの根底には次世代の方々の確保という共通している部分があるので、各部署と連携を図りながら取り組んでいきたい。

「基本理念4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり」※検証シート No. 101～115

質疑等なし

「基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり」※検証シート No. 116～135

大穂委員) No. 119 の消防団の充足率について、全国的になり手が不足しているという中で、ある報道では競技大会の訓練などが負担だという団員の声もあったがどうなのか。

消防長) 訓練を行わないと実際の場面で基本的な操作が行えないことになるため、最低限の訓練は行ってもらわなければならない。大会へは毎年同じ人に負担がかからないように交互に参加するなどしている。団員の募集については、企業にお願いをしたり、報酬の改善を図ったりして団員の確保に努めている。北鷹高校での救命講習を行う際には団員の紹介や消防団の活動を紹介したりしているがなかなか成果に結びついていないのが現状である。引き続きいろいろな場面で消防団の魅力をPRしていきたい。

座長) 最後に、全体を通して何か意見等はあるか。

大穂委員) 小又峡を散策する際に非常に危険を感じているので、現場にロープや救命浮輪のような安全を確保するようなものを設置するなど、安全対策を講じる必要があると思っている。

産業部政策監) 小又峡は県立自然公園内となっているため県との協議の場で提言したい。

(2) 地方創生関係交付金事業の検証について

座長から評価基準について提案され、検証会議での採点結果が36点以上ならA、27点から35点ならB、23から26点ならC、22点以下ならDという内容とした。

各地方創生関係交付金事業について、担当部長より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

「奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト」※説明：産業部政策監

庄子委員) 秋田犬ツーリズムからの実績データということは北秋田市のみの数値ではないということか。

産業部政策監) 北秋田市だけでは算出していない。

大穂委員) 北奥羽とはどのエリアを指しているのか。また、北秋田市では教育旅行や農家民宿は取り組んでいないと思うがどこの地域で取り組まれているものか。

産業部政策監) 北奥羽とは北東北(青森、岩手、秋田)を指している。また、教育旅行関連では昨年度に安比高原にできたスクールへ教育旅行の誘致交渉を行っている。農家民宿関連では、バーチャルトリップというオンライン上で森吉にあるゲストハウス「ORIYAMAKE」の紹介を行っている。

■採点結果は34点(妥当性評価12点、有効性評価12点、効率性評価10点)でB評価とする。

「森吉山ウェルカムステーション整備事業」※説明：総務部長

大穂委員) 阿仁合駅舎の1階から2階のウェルカムステーションへ誘導する案内が分かりづらいため工夫して利用促進につなげてもらいたい。また、1階の待合室が暑いので改善をしてもらいたい。

庄子委員) 3つのKPIのうち2つが達成できていないのに評価が高すぎないか。

中嶋委員) 効率性評価の効率性とコスト削減の項目が満点になっているが、ここが満点になっているということは最大級の評価になるので事業を行う上で、常に上を目指すという観点からするとこの2つの項目は4点で良いと思う。

■採点結果は41点(妥当性評価14点、有効性評価14点、効率性評価13点)でA評価とする。

三浦座長) 本日の会議での確認事項は各部署に確認して書面で報告することとする。また、頂いた意見・提言等は、私と事務局でまとめて、皆さんに報告する。

閉会